

## 第2学年1組 国語科学習指導案

日 時 令和5年11月22日(水) 6校時  
 児 童 2年1組 12名  
 授業者 菊地 華奈

1 単元名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう  
 教材名 「お手紙」アーノルド・ローベル 作(「国語 二(下) 赤とんぼ」光村図書)

### 2 単元について

- ・本単元では、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像する。行動や会話文を読み取り、「気持ちメーター」を活用して、2人の登場人物の気持ちを比べながら想像を膨らませたい。声の大きさや速さ、しぐさなどを工夫し、「気持ちメーター」で想像した登場人物の気持ちを音読にどう表すかについて考える。
- ・これまでに、1年生の2学期「くじらぐも」の学習で、登場人物がしたことや言ったことを思い浮かべて、友達と声を合わせて音読する学習を行っている。2年生では、「ふきのとう」の学習において、登場人物の言動や場面の様子を想像して、音読の工夫を考える学習をしている。ここでは、全文のワークシートを用いて、登場人物の気持ちを書き込んで、どのように読みたいかを話し合っただけで考えた。また、「スイミー」の学習では、出来事や人物の行動を確かめ、登場人物の気持ちを想像し、あらすじをまとめる学習をしている。スイミーの気持ちを「気持ちグラフ」を活用して想像し、どうしてそのような気持ちになっているかについて叙述をもとに考えた。児童は、自分の考えや考えた理由を友達に伝えることに苦手意識をもっており、頭の中では考えがあってもそれを言葉で表現できないことが多い。中には考えをもつこと自体が苦手な児童も数名いる。
- ・授業者は、児童が考えをもち、それを言葉で表現できるように話形を示したり、語彙を増やす取組を行ったりする必要がある。また、発問を精選する中で、児童が自ら考えを表現したくなるように発問を吟味し、ワークシートを活用しながら、児童が自信をもって自分の考えを伝え合える授業づくりをしたい。

### 3 単元の目標

[知識及び技能]	[思考力、判断力、表現力等]	[学びに向かう力、人間性等]
①語のまとまりに気を付けて音読することができる。 (1) ク	①場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 C (1) エ  ②文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 C (1) カ	①言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

### 4 単元の「課題解決的な言語活動」

登場人物の行動や気持ちを想像し、登場人物になりきって音読劇をする活動。(関連：言語活動例イ)。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりに気を付けて音読している。 (1) ク	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ  ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 C (1) カ	①場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って進んで音読劇に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画 (全12時間)

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語を読み、初発の感想を書き、発表する。</li> <li>○音読劇をするという、単元のゴールを伝える。</li> <li>○単元の課題を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○音読劇するには何に気を付けて読む必要があるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ち</li> <li>・登場人物のしたこと</li> <li>・登場人物の言ったこと</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扉絵や題名にふれることで、興味や関心をもって学習できるようにする。</li> <li>・感想を書きやすくしたり、音読劇をする場面を決める手がかりにしたりするために、「なりきりたいと思ったところ」「好きなところ」の2点を視点とする。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物のしたことや言ったことをたしかめる。</li> <li>○お話をまとまりに分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の主な行動について表を使って整理する。</li> <li>・登場人物の行動を整理するために、したことに色分けして教科書に線を引く、会話文にはシールを貼って色分けする。</li> </ul>	
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。(場面ごとにまとまりで読む。)</li> <li>○登場人物になりきって音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・p14とp22の挿絵を比べることで、表情や様子の違いに着目できるようにする。</li> <li>・二人の気持ちを場面ごとにワークシートの気持ちメーターに色を塗って表す。</li> <li>・自分の立場を表すために、ロイロノートのアンケートで、自分の気持ちメーターの数値を答える。</li> <li>・全員が自分の考えを言葉で表現できるように、困ったときは対話カードをマットに入れていつでも活用できるようにする。</li> <li>・考えた理由を伝えるときは、どの文を見たのか教科書に波線を引く、ペア学習の時は見た文を指さしする。</li> <li>・考えを言葉で表現できるように、言葉カードをマットに入れていつでも活用できるようにする。</li> <li>・登場人物の行動を具体的に想像するために、「とび出し」や「のぞく」などを動作化し、理由を考えることで登場人物の気持ちを想像する。</li> </ul>	<p><b>【知・技①】</b>            会話文に着目し、声の大きさや速さ、声の出し方などを工夫して音読しているかの確認。            [音読]</p> <p><b>【思・判・表①】</b>            登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像しているかの確認。            [記述・発言・音読]</p>
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音読劇で読みたい場面を決めて、読み方や動きなどを考える。</li> <li>○グループごとに練習し、感想を伝え合う。</li> <li>○友達の助言や読み方から、自分の音読の仕方を見直す。</li> <li>○音読劇を発表し、感想を伝え合う。</li> <li>○単元全体を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み方(声の出し方など)や動きなどを工夫して音読できるよう、本文が書いてあるワークシートを活用する。</li> <li>・同じ場面を選んだ友達と音読劇の練習を行う。</li> <li>・違うグループの音読を聞いて助言したり、感想を伝え合ったりする。</li> <li>・音読劇の発表のときは友達のよかったところを中心に感想を伝える。</li> </ul>	<p><b>【思・判・表②】</b>            文章を読んで登場人物の気持ちとその理由について想像したことを伝え合っているかの確認。            [発言]</p> <p><b>【学習に取り組む態度①】</b>            これまでの学習を生かし、想像した登場人物の気持ちなどを声の大きさや、速さ、しぐさなどを工夫して音読劇に表そうとしているかの確認。            [音読・観察]</p>

7 本時の指導

(1) 本時の目標 (8/12)

地の文や会話文、挿絵を基にしながら、がまくんとかえるくんの気持ちについて想像したことを生かして音読の工夫を考えることができる。

(2) 展開 (45分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】◇評価
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の振り返りから、前時の学習を振り返る。</li> <li>・学習課題を立てるために、学習計画表を確認する。</li> <li>・何のために気持ちを考えていくのか、目的を確認する。</li> </ul>
	2 学習課題を把握する。	
お手紙をまっているあいだのふたりの気持ちをそうぞうして、なりきって音読しよう！		
展開 25分	3 課題解決のための見通しをもつ。 ・気持ちを想像するためには、地の文や会話文、挿絵を見て考える必要があることを確認し、音読をする。	<b>【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】</b> 登場人物の気持ちを想像するために気持ちメーターを活用し、「がまくんとかえるくんの気持ちメーターの位置はどこになりそう？」と問いかける。その際に、考えた根拠となる文に線を引かせて、根拠をもって気持ちを想像できるようにする。
	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 (5分) ・がまくんとかえるくんの気持ちは1～7のどこかを考え、鉛筆で色を塗る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくんとかえるくんの行動の理由を考えさせるために、気持ちメーターを活用する。1 (とてもかなしい) ～7 (とても幸せ) のどのくらいかワークシートの気持ちメーターに色を塗り、自分の考えをもつことができるようにする。</li> <li>・全体学習で話し合いを活発にするため、気持ちメーターを考えたらロイロノートのアンケートで自分の立場を表す。</li> </ul> <b>【視点2：考えを積み上げる対話】</b> 気持ちメーターの同じ位置でも理由が違ったり、メーターの位置が違う友達の考えを聞いたりすることで考えを深められるようにしたい。「聞き対話」でペア学習を行い、話し合いの時はどの文を見たのか教科書を指さして交流するように確認したい。 <b>【ゆさぶりの発問】</b> 気持ちメーターは、がまくんもかえるくんも7に近い回答をする児童が多いことが予想される。「二人の幸せの中身は同じなの？」と問いかけることで、幸せ度は同じでもがまくんは手紙がもらえる幸せ、かえるくんの優しさを感じての幸せ、かえるくんはがまくんが喜んでくれる幸せ、のように、二人の幸せの理由が違うことを考えさせたい。そして、二人の幸せの中身の違いを考えることで、二人の気持ちをより想像し、音読劇に生かせるようにしていきたい。
	(2) ペア学習 (3分) ・自分が気持ちメーターをどこにしたかと、その時に見た文を伝え合う。	
(3) 全体学習 ・気持ちメーターをどこにしたかと、その理由を発表する。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは、がまくんの気持ちメーターは7だと思います。なぜかという、ずっとほしかったお手紙を友達にもらえて幸せだと思うからです。</li> <li>・わたしは、かえるくんの気持ちメーターは7だと思います。なぜかという、がまくんが手紙をもらってよこんでいたからです。</li> </ul>		
終末 15分	5 学習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙をまっている場面でなりきりたいところを1つ選びワークシートに抜き出して書く。</li> </ul>
	わたしは、「とてもいいお手紙だ。」のところをなりきりたいです。(かえるくんから、親友と言われてうれしかったと思うので、その気持ちを表すために明るい声でゆっくり) 読みたいです。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で想像した登場人物の気持ちを生かして、「どんな声」「どんな声の大きさ」「どんな速さ」で読むかを、言葉カードから選び、その理由とともにワークシートに書く。</li> </ul>
		◇地の文や会話文、挿絵を基にしながら登場人物の気持ちを具体的に想像し、 <u>音読の工夫について叙述を根拠にして考える</u> ことができているかの確認。 <div style="text-align: right;">[ワークシートの記述]</div>

<p>6 振り返りをする。</p>	<p>・ワークシートに「今日分かったこと」「今日できるようになったこと」を書く。</p>
<p>・〇〇さんのはっぴょうを聞いて、かえるくんはがまくんがうれしそうだとうれいということが分かった。</p> <p>・しあわせな気持ちと書いていたので、明るく音読することができた。</p> <p>・かなしい気持ちとしあわせな気持ちのちがいを音読であらわすことができるようになった。</p> <p>・音読げきの時も、その時の気持ちを考えて声をかえられるようにしたい。</p>	
<p>7 次時の確認をする。</p>	<p>・次の時間から音読劇の練習に入ることを確認する。</p>

8 板書計画

<p>⑦ 分かったこと、できるようになったこと</p>	<p>⑧ ワークシートになりきりたいところを書く。</p> <p>7 6 5 4 3 2 1</p> <p>がまくんがうれしそうで自分もうれしい。</p> <p>挿絵</p>	<p>かえるくん</p> <p>7 6 5 4 3 2 1</p> <p>うれしいけど手紙がまだとどかない。</p> <p>はじめて手紙がとどくからうれしい。</p> <p>挿絵</p>	<p>⑨ 気持ちメーター・・・じの文、会話文、絵</p> <p>お手紙</p> <p>アーノルドローベル 作</p> <p>⑩ お手紙をまっけているあいだのふたりの気持ちをそうぞうして、なりきって音読しよう！</p>
-----------------------------	---	---	--

9 本時の授業改善の視点

【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

前時までは悲しい気持ちだったが、本時の場面は前時から気持ちが大きく変化する。気持ちメーターを使うことで、言葉には表しにくい気持ちを表現できるのではないかと考えて活用することにした。メーターの位置にした理由について、根拠をもって考えるために、考える時に見た文に線を引かせる活動を取り入れた。対話がより活発になるのではないかと考え、わけはワークシートにはまとめず自分の言葉で伝えることにした。

【視点2：考えを積み上げる対話】

初めに自力解決を行い、自分との対話ができる時間を保障する。次に考えたことを友達との対話によって交流する。「聞き対話」で行い、考えをまとめるのではなく、相手の考えを尊重してお互いに考えを聞き合い、自分の考えを深められるようにしたいと考えた。考えの差があることによって読みが深まると思うため、同じメーターの位置が同じでも根拠が違ったり、メーターの位置が違う理由を聞いたりすることで、自分にはない考えを交流できるようにしたい。話し合いが活発になるように本時は話形を取って提示せず、困ったら机上にある対話カードを見て話し合いを進められるようにした。考えを自分の言葉で表すのが難しい児童には、話形を渡し、相手に伝えることができるように支援する。

【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】

多くの児童が、がまくんとかえるくんの気持ちメーターを7に近い数値にすることが予想される。「同じ数値でも幸せの中身が違うのではないかと」と問いかけることで、がまくんがやっと手紙をもらえてうれしい気持ちやかえるくんが友達のために喜びを感じているなど、叙述を基に本文にはない登場人物の気持ちをより深く想像できるようにしたい。